

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

令和 3 年 4 月～ 6 月実 績

令和 3 年 7 月～ 9 月見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的

この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法

経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区

あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数

165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数

165企業（回答率100%）
6. 調査対象期間

令和3年4～6月期実績及び令和3年7～9月期見通し
7. 調査時点

令和3年6月1日（火）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率（%）
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.5%	24	14.5%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について＜増加・上昇・好転＞の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

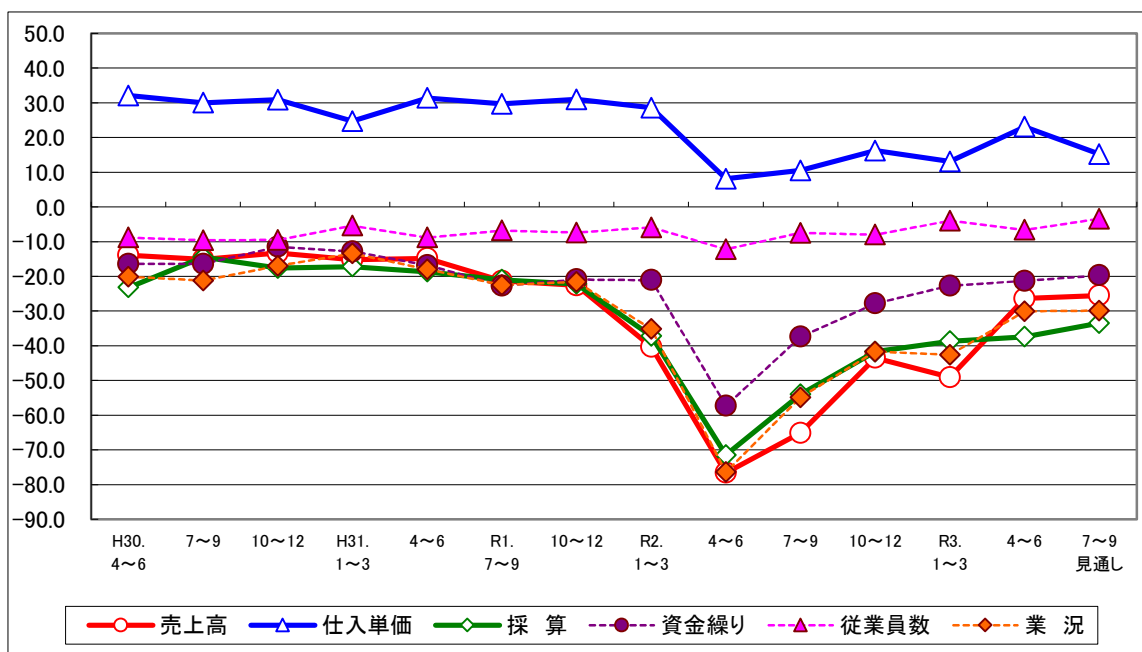
DI（数式）＝（上昇企業数－低下企業数）÷ 回答企業数 × 100

10. 分析執筆者 福井県立大学 地域経済研究所長 教授 南保 勝 氏

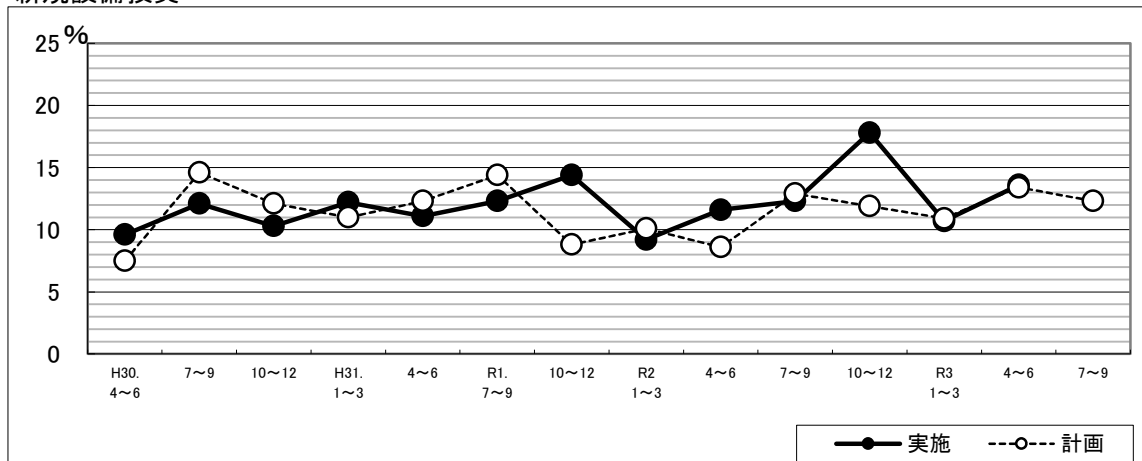
全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向推移(前年同期比:DI値)

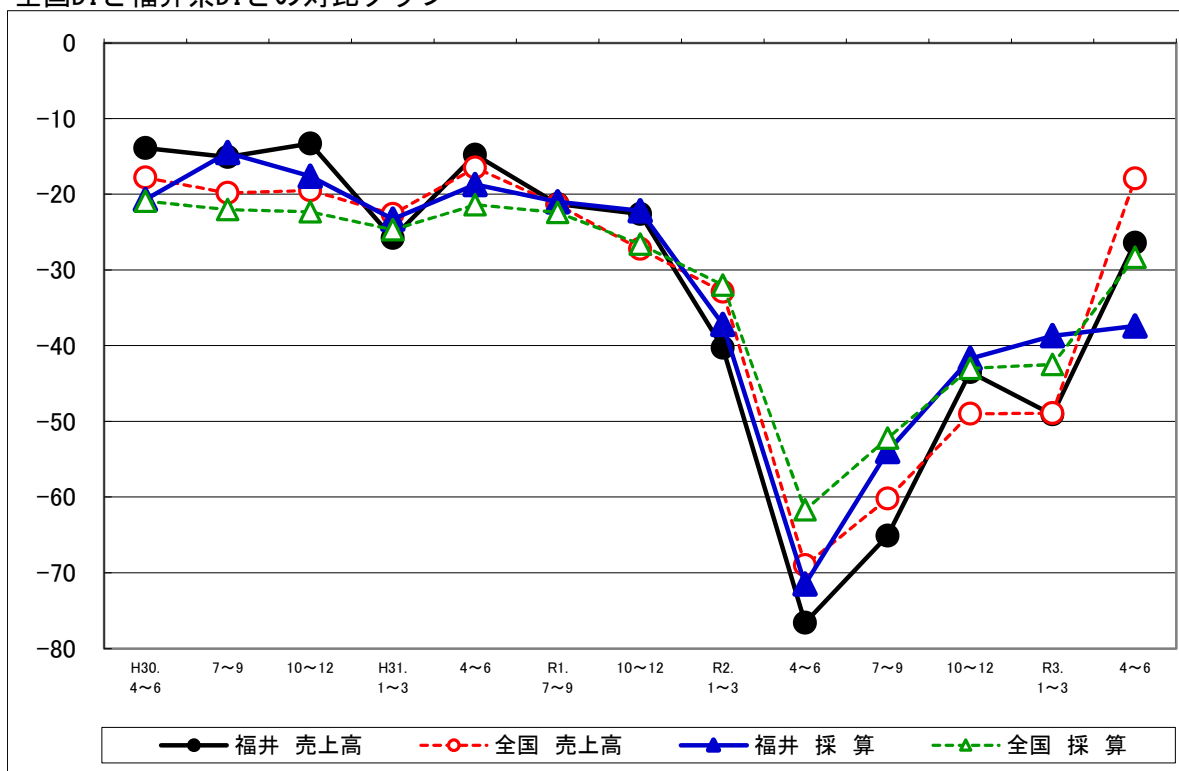
期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
H30.4~6	▲ 13.9	32.1	▲ 23.2	▲ 16.4	▲ 8.8	▲ 20.1
7~9	▲ 15.1	30.0	▲ 14.5	▲ 16.4	▲ 9.6	▲ 21.2
10~12	▲ 13.3	30.9	▲ 17.6	▲ 11.5	▲ 9.5	▲ 17.0
H31.1~3	▲ 15.2	24.7	▲ 17.2	▲ 12.8	▲ 5.4	▲ 13.4
4~6	▲ 14.8	31.4	▲ 18.7	▲ 16.8	▲ 8.8	▲ 18.0
R1.7~9	▲ 21.3	29.7	▲ 21.0	▲ 22.7	▲ 6.8	▲ 22.5
10~12	▲ 22.6	31.0	▲ 22.2	▲ 20.9	▲ 7.4	▲ 21.6
R2.1~3	▲ 40.3	28.6	▲ 37.2	▲ 21.1	▲ 5.9	▲ 35.2
4~6	▲ 76.6	8.1	▲ 71.5	▲ 57.3	▲ 12.2	▲ 76.4
7~9	▲ 65.1	10.5	▲ 54.0	▲ 37.4	▲ 7.5	▲ 54.9
10~12	▲ 43.5	16.2	▲ 41.7	▲ 27.8	▲ 8.0	▲ 41.7
R3.1~3	▲ 49.1	13.1	▲ 38.7	▲ 22.7	▲ 4.0	▲ 42.6
4~6	▲ 26.4	23.1	▲ 37.4	▲ 21.3	▲ 6.6	▲ 30.1
7~9見通し	▲ 25.5	15.2	▲ 33.5	▲ 19.7	▲ 3.4	▲ 29.9



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

R3年4～6月期の福井県経済を概観すると、需要面では、新型コロナウイルス感染症の影響により主要観光地の来訪者数や宿泊者数、飲食・サービスなどが依然厳しい状況ながら、食品スーパー、ドラッグストア、ホームセンター、家電大型専門店などでは、巣ごもり需要やペントアップ需要の顕在化などから順調に推移している。また、供給面では、繊維における衣料品需要の低迷に加え、化学・プラスチックでも一部で弱い動きがみられるものの、電子部品・デバイス、輸送機械、非鉄金属等の増勢により、全体としては堅調に推移。そのため、同期間の福井県経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部では厳しい状況が続いているものの、緩やかに持ち直しつつあるといえる。

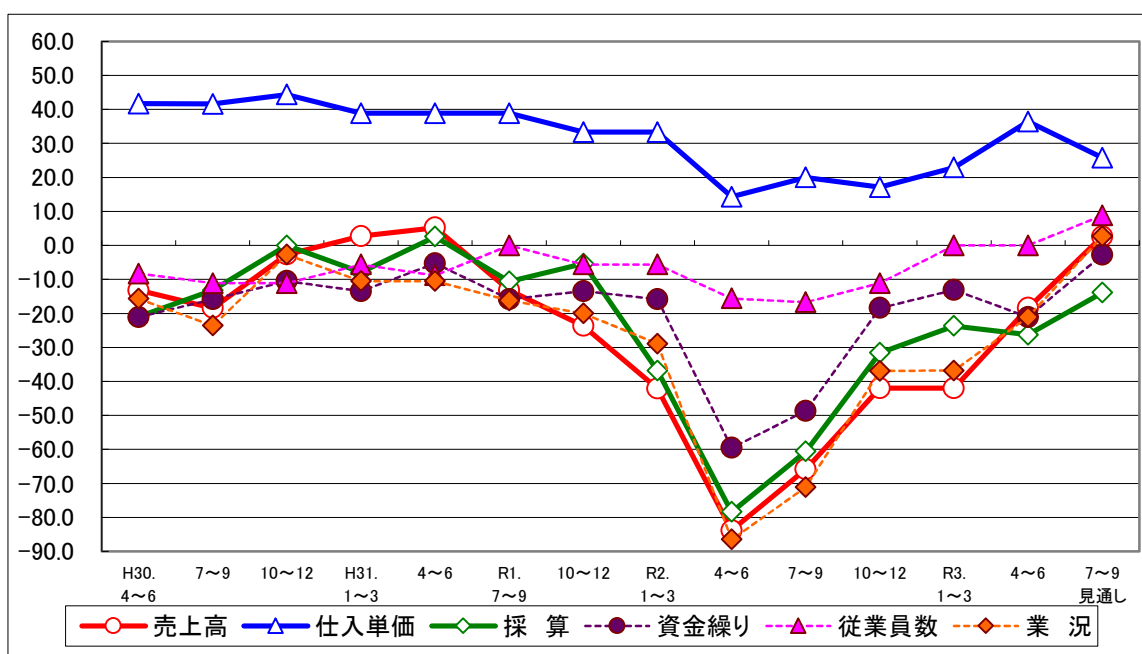
こうした中、今期（R3年4～6月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち、仕入単価と従業員数を除いて改善の動きがみられた。ちなみに、項目ごとのDI値をみると、仕入単価（逆指数）が前期13.1→今期23.1へ、従業員数が前期▲4.0→今期▲6.6へと悪化。改善項目では、売上高が前期▲49.1→今期▲26.4、採算が前期▲38.7→今期▲37.4、資金繰りが前期▲22.7→今期▲21.3、業況が前期▲42.6→今期▲30.1となっている。また、先行き（R3年7～9月期）については、6項目全てが改善予測となっており、来期においては概ね持ち直しの動きが強まることがうかがえる。

一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、福井県及び全国ともにDI値は改善傾向となっているが、回復幅は売上高、採算ともに全国が福井県を上回っており、この結果から、福井県における中小・小規模事業所の経営環境が全国より厳しいことがうかがえる。そのほか、今期の新規設備投資については、設備投資を計画している企業ウエイト13.4%に対し実施した企業ウエイト13.6%と、ほぼ予定通りの投資状況となっているほか、先行き（R3年7～9月期）については、何らかの投資を計画する企業ウエイトが12.3%と、今期とほぼ同様の投資マインドであることが予想される。

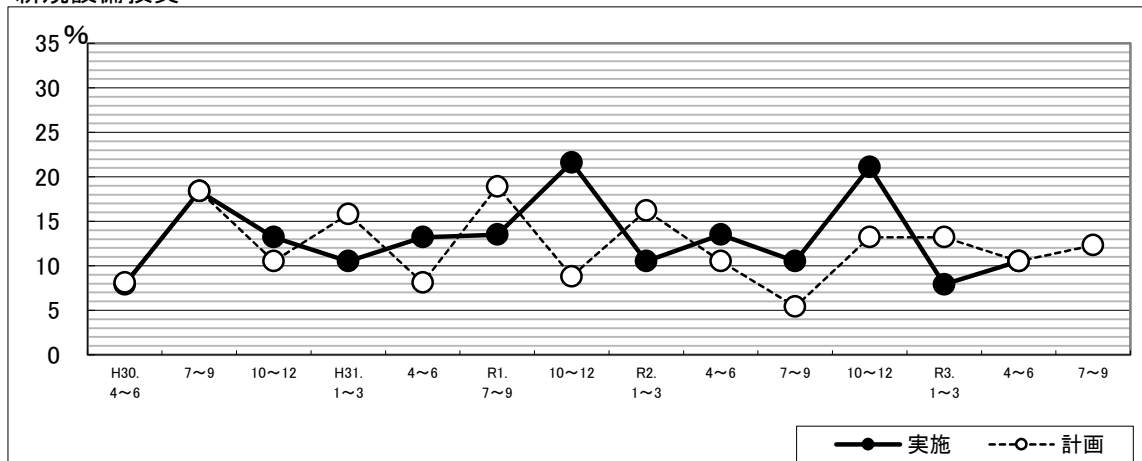
製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

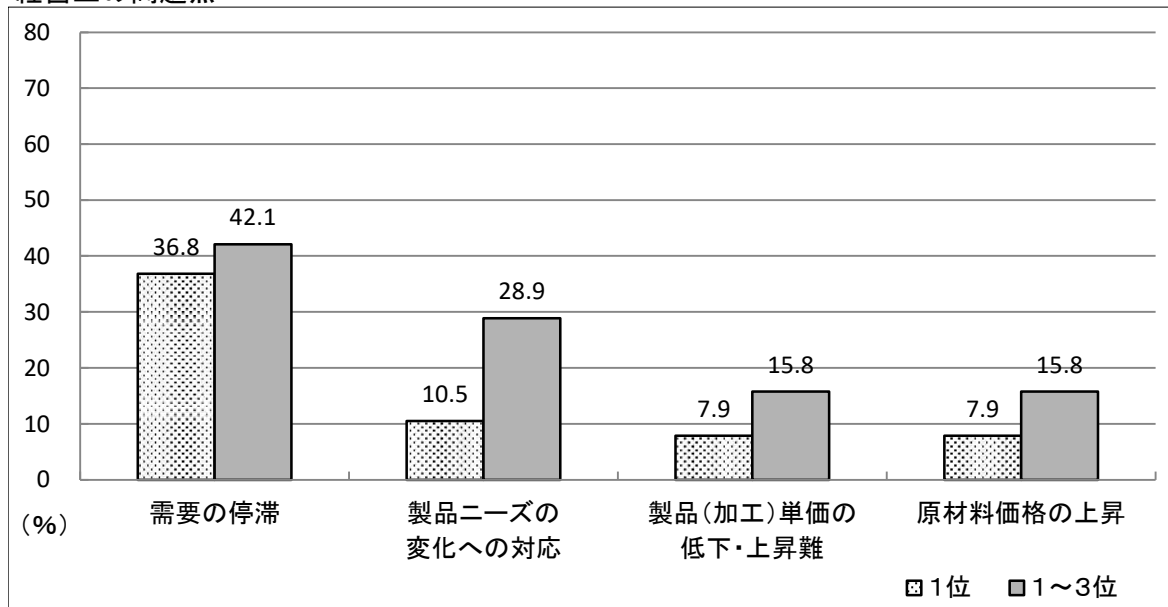
期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
H30.4～6	▲ 13.2	41.7	▲ 21.0	▲ 21.1	▲ 8.3	▲ 15.7
7～9	▲ 18.4	41.6	▲ 13.2	▲ 15.8	▲ 11.1	▲ 23.6
10～12	▲ 2.7	44.4	0.0	▲ 10.5	▲ 11.1	▲ 2.7
H31.1～3	2.7	38.9	▲ 7.9	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 10.5
4～6	5.2	38.9	2.6	▲ 5.3	▲ 8.8	▲ 10.5
R1.7～9	▲ 13.2	38.9	▲ 10.6	▲ 15.8	0.0	▲ 16.2
10～12	▲ 23.7	33.3	▲ 5.4	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 20.0
R2.1～3	▲ 42.1	33.3	▲ 36.8	▲ 15.8	▲ 5.6	▲ 28.9
4～6	▲ 83.8	14.3	▲ 78.4	▲ 59.5	▲ 15.6	▲ 86.5
7～9	▲ 65.8	20.0	▲ 60.6	▲ 48.7	▲ 16.7	▲ 71.1
10～12	▲ 42.0	17.1	▲ 31.6	▲ 18.4	▲ 11.1	▲ 36.9
R3.1～3	▲ 42.0	22.9	▲ 23.7	▲ 13.1	0.0	▲ 36.8
4～6	▲ 18.4	36.4	▲ 26.3	▲ 21.1	0.0	▲ 21.1
7～9見通し	2.6	25.8	▲ 13.9	▲ 2.8	8.8	2.7



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・コロナ感染防止の為県外観光客が著しく減少し、又土産品は買い控えがあり低迷が続いている。
- ・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などで酒類提供自粛が解除されない限り、酒メーカーの需要は減少し続ける。
- ・コロナ禍になってからの状況悪化が多少改善されてきているような感はあるが、まだまだ厳しい状況には変わらない。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、繊維工業は衣料品分野が不振ながら非衣料分野が持ち直しているほか、眼鏡枠もOEMなどで受注が幾分上向いているものの、化学・プラスチックなどでは一部で弱い動きがみられる。一方、主力の電子部品・デバイスではスマートフォン需要を中心に、輸送機械、非鉄金属も持ち直しており、総じてみれば持ち直しの動きが強まっている。ただ、鋼材などの原料高と半導体不足には注視する必要がある。

こうした中、今期（R3年4～6月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目中、売上高と業況で改善した以外、横這い或いは悪化傾向を示した。各項目のDI値をみると、売上高が前期▲42.0→今期▲18.4、仕入単価（逆指数）が前期22.9→今期36.4、採算が前期▲23.7→今期▲26.3、資金繰りが前期▲13.1→今期▲21.1、従業員数が前期0.0→今期0.0、業況が前期▲36.8→今期▲21.1となっている。また、先行き（R3年7～9月期）については、すべての項目で改善予測となっており、来期は持ち直し傾向を強めることが期待できる。

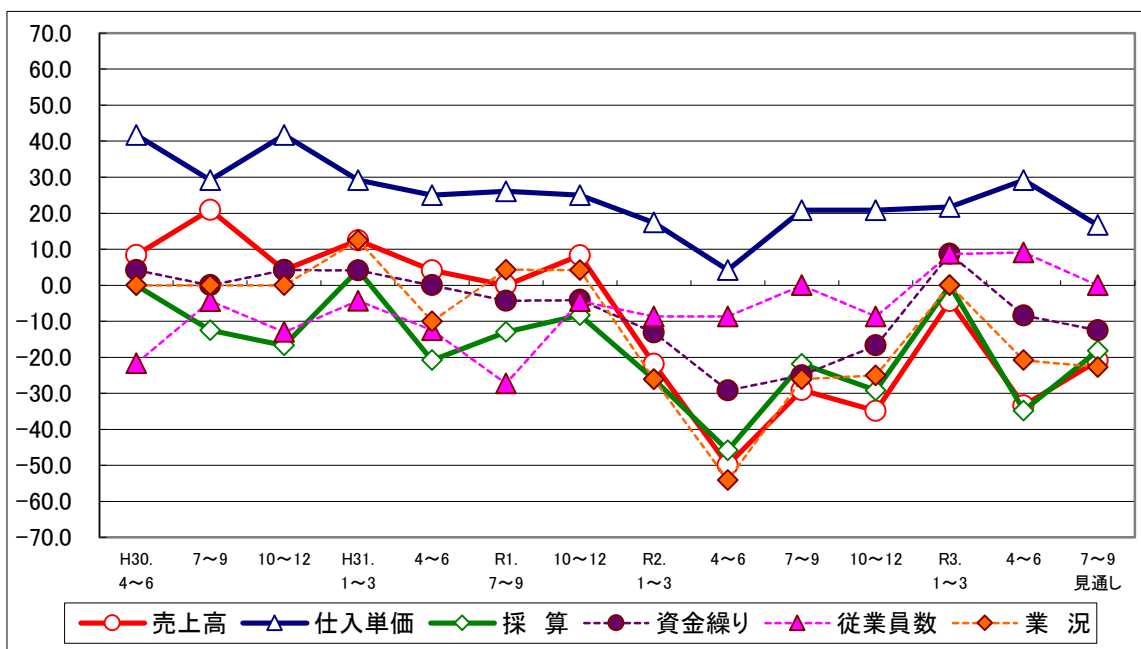
一方、新規設備投資の状況については、計画の10.5%に対し実施が10.5%となり、ほぼ計画通り設備投資が進んでいることがうかがえる。また、先行き（R3年7～9月期）についても、何らかの投資を予定する企業が12.3%と、今期より幾分投資マインドの改善が期待できる。

最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「需要の停滞」で最も多く36.8%（1位～3位までに挙げた企業42.1%）を占めた。また、個別の見解としては、「緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などで酒類提供自粛が解除されない限り、酒メーカーの需要は減少し続ける」、「状況悪化が多少改善されてきているような感はあるが、まだまだ厳しい状況には変わらない」など、悲観的な見解が多くみられた。

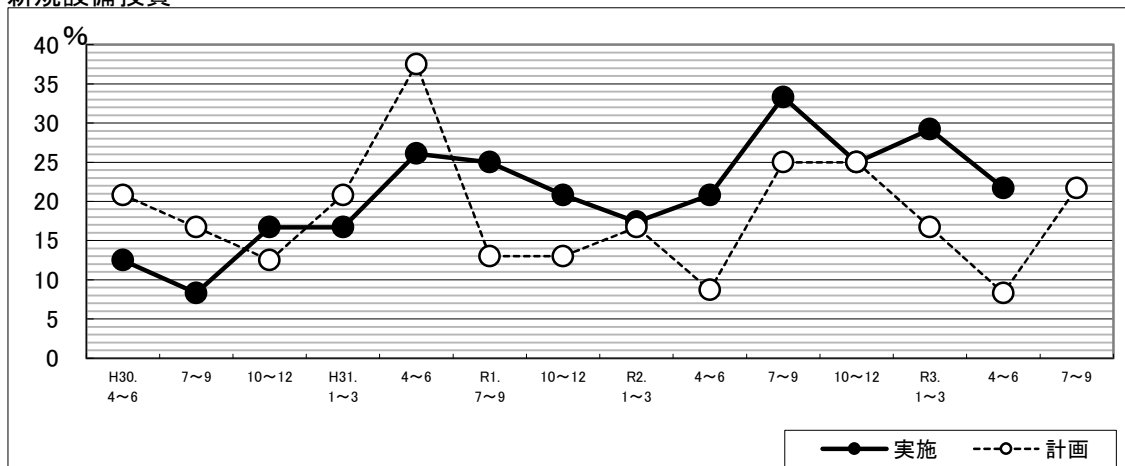
建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

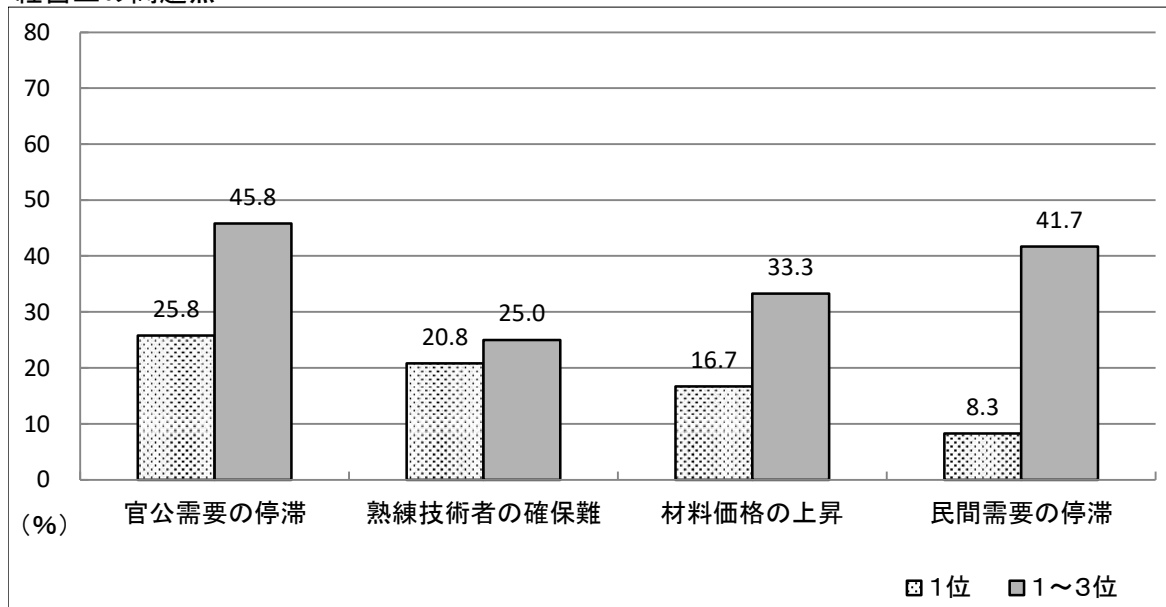
期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
H30.4～6	8.4	41.7	0.0	4.2	▲ 21.7	0.0
7～9	20.9	29.2	▲ 12.5	0.0	▲ 4.4	0.0
10～12	4.2	41.7	▲ 16.7	4.2	▲ 13.0	0.0
H31.1～3	12.5	29.2	4.2	4.1	▲ 4.3	12.5
4～6	4.1	25.0	▲ 20.8	0.0	▲ 12.5	▲ 10.0
R1.7～9	0.0	26.1	▲ 13.0	▲ 4.3	▲ 27.3	4.3
10～12	8.3	25.0	▲ 8.3	▲ 4.1	▲ 4.4	4.2
R2.1～3	▲ 21.8	17.4	▲ 26.1	▲ 13.1	▲ 8.7	▲ 26.1
4～6	▲ 49.9	4.2	▲ 45.8	▲ 29.2	▲ 8.7	▲ 54.1
7～9	▲ 29.1	20.8	▲ 21.8	▲ 25.0	0.0	▲ 26.1
10～12	▲ 34.9	20.8	▲ 29.2	▲ 16.7	▲ 8.7	▲ 25.0
R3.1～3	▲ 4.4	21.7	0.0	8.7	8.7	0.0
4～6	▲ 33.4	29.2	▲ 34.8	▲ 8.4	9.1	▲ 20.8
7～9見通し	▲ 20.9	16.7	▲ 18.2	▲ 12.5	0.0	▲ 22.7



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・ 公共工事の発注は今の所順調であり新型コロナウイルスの影響が少ないがウイルスが収まった後、公共投資がどうなるか不安である。
- ・ 電材価格の急上昇を受け採算は急速に悪化している。加えて月間の引き合いも減少をはじめており、今後の受注環境の変化に柔軟に対応できる技術者の多能工化を急いでいる。

建設業の景況

福井県内におけるR3年度（R3年4～6月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で831億8百万円の前年同期比21.6%の減少、発注件数は同979件の同4.6%の減少となっている。これを主な発注者別でみると、独立行政法人等関連工事が424億36百万円の同26.9%減、市町村関連工事が151億28百万円の前年同期比31.5%減となっている。一方、住宅投資については、R3年4～6月期の2か月累計で、前年同期比20.7%増の747戸であった。利用関係別では、主力の持家が前年同期比5.1%増の436戸、貸家が同44.3%増の205戸となっている。ただ、住宅業界では、3月以降の「ウッドショック」により木材の需給が逼迫し価格が高騰しており、今後の着工戸数の伸びに影響してくることが懸念されている。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目のうち従業員数を除く5項目で悪化傾向となっており、価格高騰による需要減少を裏付ける結果となっている。各項目別のDI値をみると、売上高が前期▲4.4→今期▲33.4、仕入単価（逆指数）が前期21.7→今期29.2、採算が前期0.0→今期▲34.8、資金繰りが前期8.7→今期▲8.4、従業員数が前期8.7→今期9.1、業況が前期0.0→今期▲20.8となっている。また、先行き（R3年7～9月期）については、4項目で改善予測となっており、現状より幾分の回復が期待される。

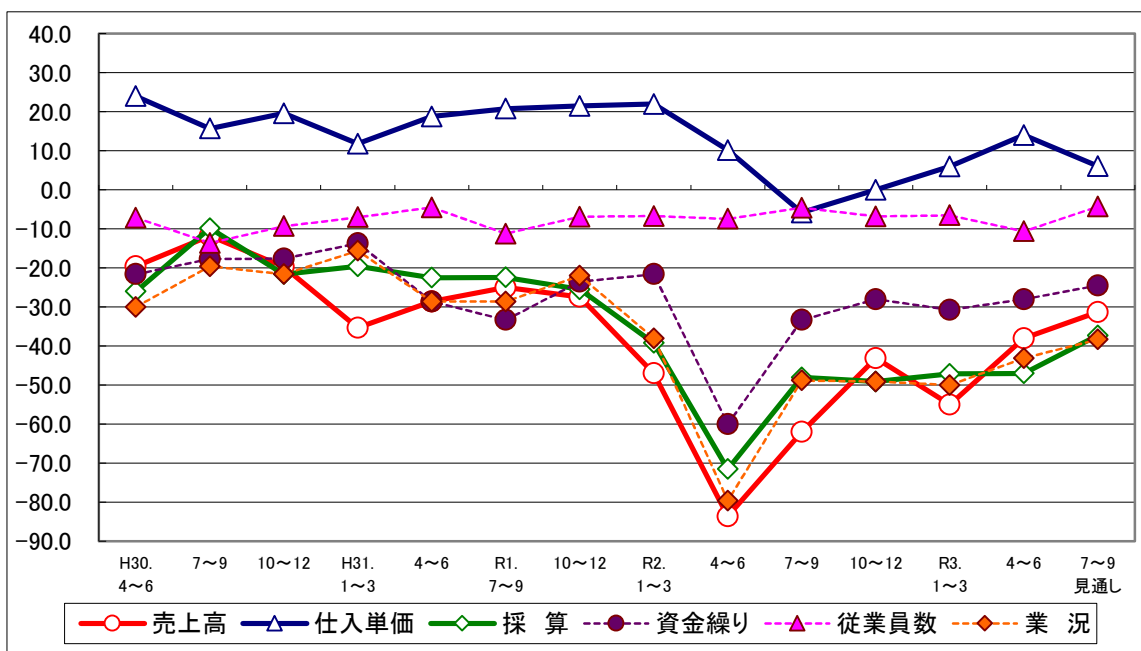
一方、今期の新規設備投資については、計画した企業8.3%に対し実施した企業が21.7%となり、堅調な動きを示した。また、先行き（R3年7～9月期）についても、何らかの投資計画を持つ企業が今期同様の21.7%となっており、投資マインドは横這い推移が予想される。

最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「官公需要の停滞」で最も多く25.8%（1位～3位に挙げた企業45.8%）を占めた。次いで、「熟練技術者の確保難」（1位に挙げた企業20.8%、1位～3位に挙げた企業25.0%）が続いている。その他の見解としては、「官公庁の入札案件がコロナ発生以降減ってきている」、「電材価格の急上昇を受け採算は急速に悪化している」など、悲観的な声が聞かれている。

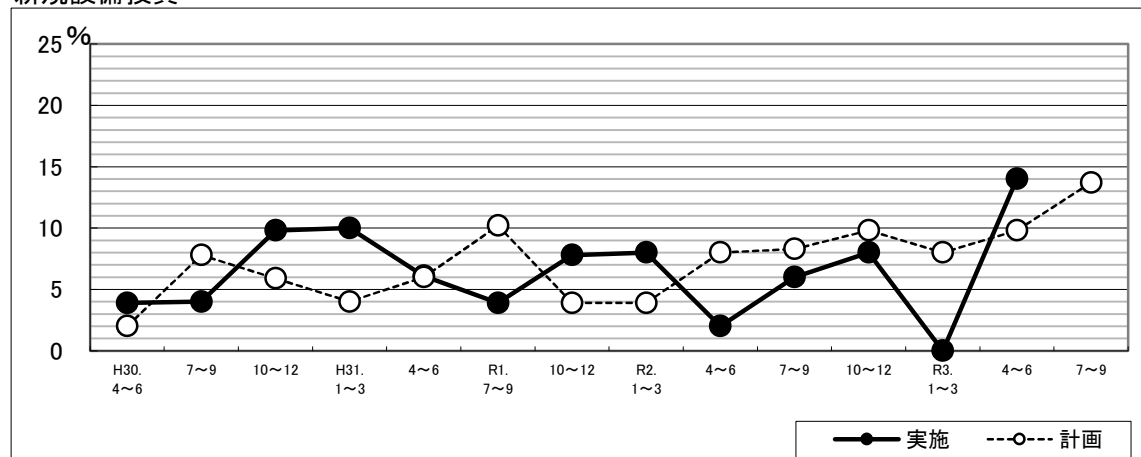
小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

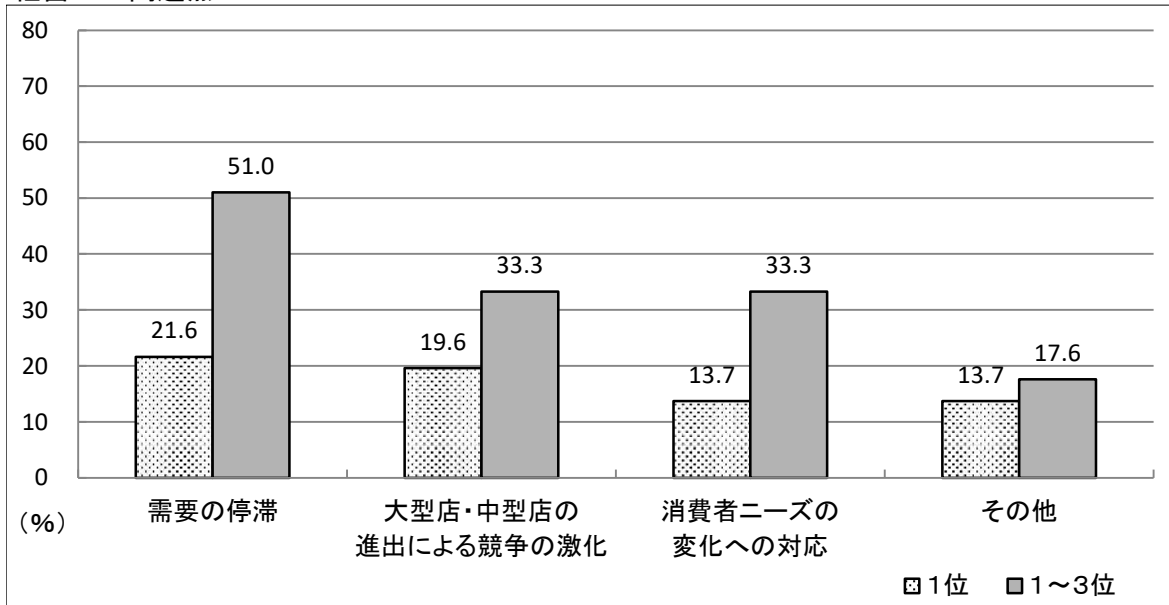
期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
H30.4～6	▲ 19.6	24.0	▲ 26.0	▲ 21.6	▲ 7.1	▲ 30.0
7～9	▲ 11.8	15.7	▲ 9.8	▲ 17.7	▲ 13.6	▲ 19.6
10～12	▲ 19.7	19.6	▲ 21.6	▲ 17.6	▲ 9.3	▲ 21.6
H31.1～3	▲ 35.3	11.8	▲ 19.6	▲ 13.7	▲ 7.0	▲ 15.6
4～6	▲ 28.6	18.8	▲ 22.5	▲ 28.6	▲ 4.5	▲ 28.6
R1.7～9	▲ 25.0	20.8	▲ 22.4	▲ 33.3	▲ 11.2	▲ 28.6
10～12	▲ 27.4	21.5	▲ 25.5	▲ 23.5	▲ 6.9	▲ 22.0
R2.1～3	▲ 47.0	22.0	▲ 39.2	▲ 21.6	▲ 6.7	▲ 38.0
4～6	▲ 83.6	10.2	▲ 71.5	▲ 60.0	▲ 7.4	▲ 79.6
7～9	▲ 62.0	▲ 5.8	▲ 48.0	▲ 33.3	▲ 4.6	▲ 48.8
10～12	▲ 43.1	0.0	▲ 49.1	▲ 28.0	▲ 6.8	▲ 49.1
R3.1～3	▲ 55.0	6.0	▲ 47.1	▲ 30.7	▲ 6.5	▲ 50.0
4～6	▲ 38.0	14.0	▲ 47.0	▲ 28.0	▲ 10.6	▲ 43.1
7～9見通し	▲ 31.3	6.1	▲ 37.3	▲ 24.5	▲ 4.3	▲ 38.3



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・県により4月中旬に宣言レベルが上がったことにより、来店客が激減した。
- ・コロナ禍で全ての会合行事が中止となり出かけることが無くなってしまい、新しい洋服も要らないとお客様から言われているが普段着のリーズナブルな商品を揃える努力をしている。仕入先も県外で大変苦勞をしている。

小売業の景況

最近の小売商況を概観すると、新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの店舗で厳しい状況にあるが、食品スーパー、ドラッグストア、ホームセンターなどでは、巣ごもり需要やペントアップ需要をキャッチし売上を伸ばす例もみられ、業種業態による業況格差も広がっている。参考までに、近畿経済産業局が公表する5月の県内大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）をみると、衣料品は不冴えながら、巣ごもり需要関連の飲食品や園芸用品、DIY用品等の売れ行きがよいことから、対前々年比（2019年比）で5.8%増加し、68億84百万円と、2か月連続の増加となった。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中4項目で改善傾向となっている。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲55.0→今期▲38.0、仕入単価（逆指数）が前期6.0→今期14.0、採算が前期▲47.1→今期▲47.0、資金繰りが前期▲30.7→今期▲28.0、従業員数が前期▲6.5→▲10.6、業況が前期▲50.0→今期▲43.1となっている。また、先行き（R3年4－6月期）については、すべての項目で改善予測となっている。

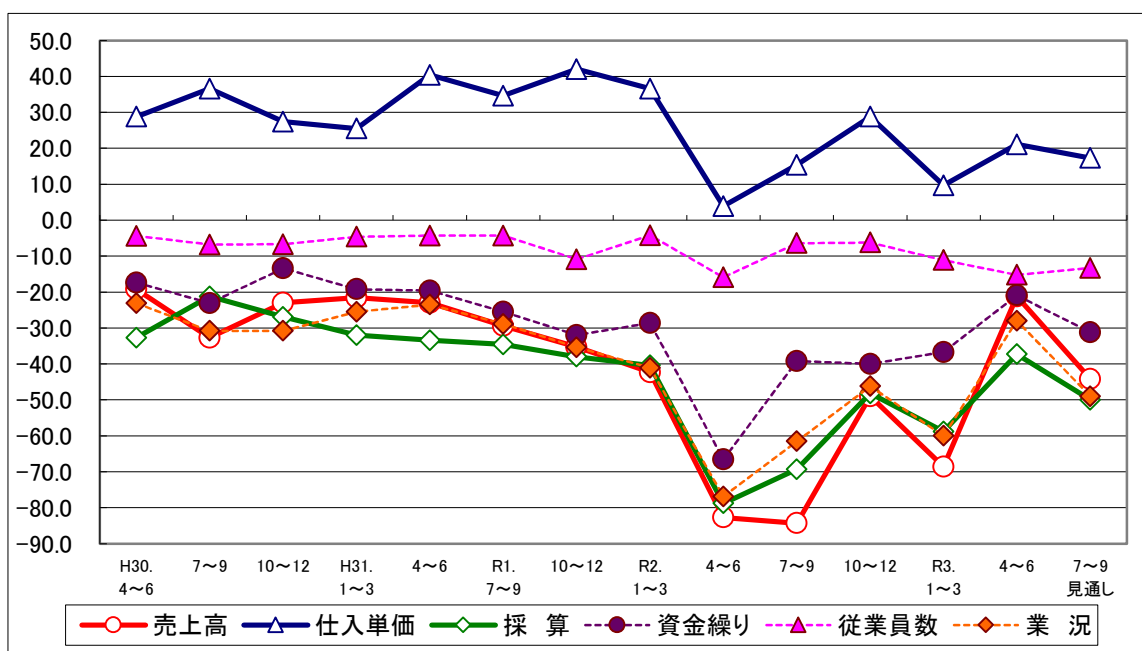
一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の9.8%に対し実施は14.0%となり、実施が計画を上回ったほか、先行き（R3年7－9月期）についても、何らかの投資を計画する企業ウエイトが13.7%と、今期並みの投資が見込まれる。

最後に、経営上の問題点については、「需要の停滞」が最も多く、1位に挙げた企業ウエイト21.6%、1位～3位までに挙げた企業51.0%となった。「その他」に関連する見解としては、「4月中旬に宣言レベルが上がったことにより、来店客が激減した」、「出かけることがなくなり、新しい洋服も要らないとお客様から言われている」など、コロナ禍での厳しい経営環境が読み取れる声が多く聞かれた。

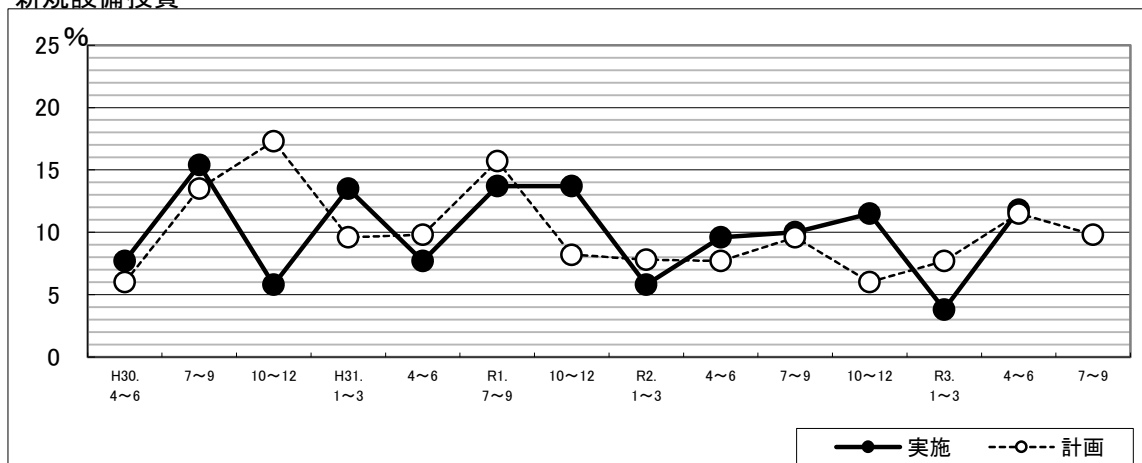
サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

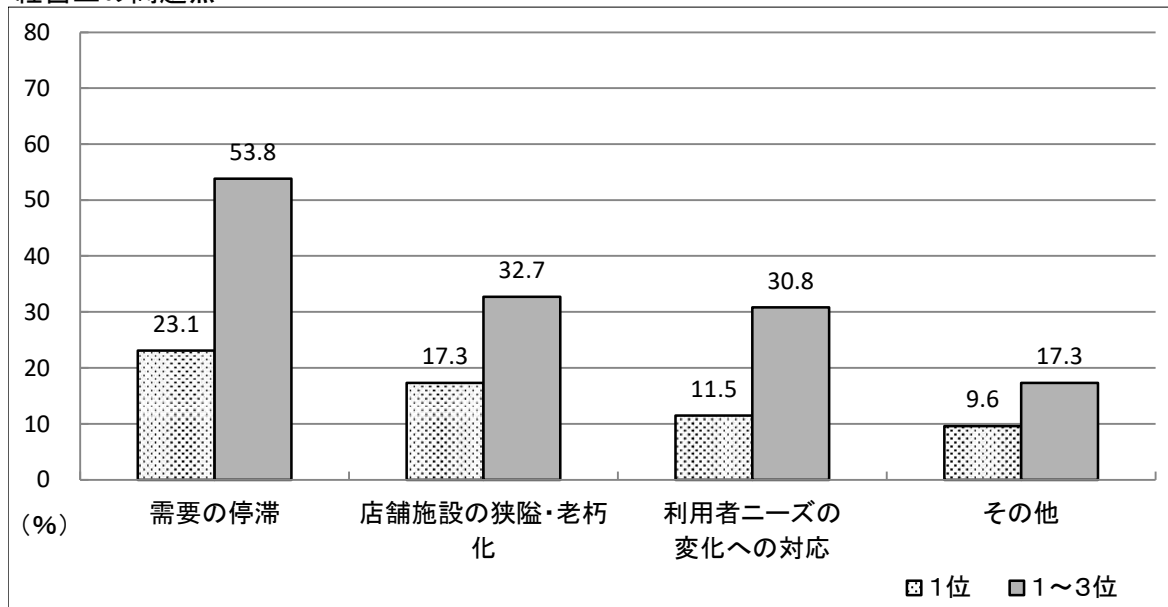
期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
H30.4～6	▲ 19.2	28.8	▲ 32.7	▲ 17.4	▲ 4.4	▲ 23.1
7～9	▲ 32.7	36.6	▲ 21.2	▲ 23.1	▲ 6.8	▲ 30.8
10～12	▲ 23.0	27.4	▲ 26.9	▲ 13.4	▲ 6.7	▲ 30.8
H31.1～3	▲ 21.6	25.5	▲ 32.0	▲ 19.2	▲ 4.6	▲ 25.5
4～6	▲ 23.0	40.4	▲ 33.4	▲ 19.6	▲ 4.3	▲ 23.5
R1.7～9	▲ 29.4	34.6	▲ 34.6	▲ 25.5	▲ 4.3	▲ 28.9
10～12	▲ 35.3	42.0	▲ 38.0	▲ 32.0	▲ 10.9	▲ 35.4
R2.1～3	▲ 42.3	36.6	▲ 40.4	▲ 28.6	▲ 4.2	▲ 41.1
4～6	▲ 82.7	3.9	▲ 78.8	▲ 66.6	▲ 15.9	▲ 76.9
7～9	▲ 84.3	15.4	▲ 69.3	▲ 39.2	▲ 6.4	▲ 61.5
10～12	▲ 49.0	28.8	▲ 48.2	▲ 40.0	▲ 6.2	▲ 46.2
R3.1～3	▲ 68.6	9.7	▲ 58.8	▲ 36.7	▲ 11.1	▲ 60.0
4～6	▲ 21.2	21.1	▲ 37.3	▲ 20.9	▲ 15.2	▲ 28.0
7～9見通し	▲ 44.2	17.3	▲ 50.0	▲ 31.2	▲ 13.3	▲ 49.0



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・緊急事態宣言対象外ですが営業利益などは、対象地域並に影響を受けており、同等の助成金と支援が必要。また変異株など感染率が高いため県内からの客足も停滞しておりR2年末の様な客足は戻らないと考えている。
- ・コロナ終息後の経営の変化が不安。今お客様の少ない時期に設備投資し、コロナ終息後盛り返せるとスムーズに営業に移れると思う。

サービス業の景況

総務省が毎月実施する「サービス産業動向調査」によると、全国におけるR3年4月のサービス関連産業売上高をみると、4月の売上高は29.7兆円、前年同月に比べ14.2%の増加で、15か月ぶりの増加となった。しかし、前々年（2019年）同月との比較では9.0%の減少となっており、まだまだ需要が回復したとは言いがたい。

増加に寄与した産業をみると、娯楽などを含む「生活関連サービス業、娯楽業」が、前年同月比66.7%の増加で、74か月ぶりの増加。運輸に附帯するサービスなどを含む「運輸業、郵便業」が前年同月比18.8%の増加で、19か月ぶりの増加。飲食店などを含む「宿泊業、飲食サービス業」が前年同月比60.9%の増加で、15か月ぶりの増加となっている。

こうした中、今回の景況調査をみると、DI値6項目中、仕入単価（逆指数）と従業員数を除く4項目で改善傾向を示している。ちなみに、項目別の指数を見ると、売上高が前期▲68.6→今期▲21.2、仕入単価（逆指数）が前期9.7→今期21.1、採算が前期▲58.8→今期▲37.3、資金繰りが前期▲36.7→今期▲20.9、従業員数が前期▲11.1→今期▲15.2、業況が前期▲60.0→今期▲28.0となっている。また、先行き（R3年7～9月期）については、4項目で悪化予測となっており、引き続き県内サービス業の厳しい経営環境がうかがえる。

一方、新規設備投資については、計画11.5%に対し実施が11.8%となり、堅調な投資動向となった。また、先行き（R3年7～9月期）については、何らかの投資を考える企業ウェイトが9.8%となり、今期をやや下回ることが予想される。

最後に、経営上の問題点については、「需要の停滞」（1位に挙げた企業ウェイト23.1%、1位～3位までに挙げた企業53.8%）への指摘が最も多かった。また、個別の見解としては、「コロナの終息が見えない。国、県、市の支援が終われば経営が成り立たなくなる」、「変異株など感染率が高いため県内からの客足も停滞しておりR2年末のような客足は戻らない」など、悲観的な声が多く聞かれた。

全国・福井景気動向 令和3年4月～6月（対前年同期比：DI値）

D I 値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別		売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
全国	全体						
	DI値	▲ 17.9	27.8	▲ 28.3	▲ 18.4	▲ 5.5	▲ 26.5
	製造業						
	DI値	▲ 10.7	41.6	▲ 20.3	▲ 14.7	▲ 5.0	▲ 17.8
	建設業						
	DI値	▲ 22.7	47.4	▲ 19.9	▲ 3.5	▲ 3.7	▲ 14.8
	小売業						
	DI値	▲ 27.5	19.4	▲ 36.8	▲ 23.6	▲ 4.4	▲ 35.7
	サービス業						
	DI値	▲ 15.9	18.8	▲ 29.7	▲ 22.9	▲ 7.5	▲ 29.5
福井	全体						
	DI値	▲ 26.4	23.1	▲ 37.4	▲ 21.3	▲ 6.6	▲ 30.1
	製造業						
	DI値	▲ 18.4	36.4	▲ 26.3	▲ 21.1	0.0	▲ 21.1
	建設業						
	DI値	▲ 33.4	29.2	▲ 34.8	▲ 8.4	9.1	▲ 20.8
	小売業						
	DI値	▲ 38.0	14.0	▲ 47.0	▲ 28.0	▲ 10.6	▲ 43.1
	サービス業						
	DI値	▲ 21.2	21.1	▲ 37.3	▲ 20.9	▲ 15.2	▲ 28.0

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

